

せせらぎ 1月号



明けましておめでとうございます



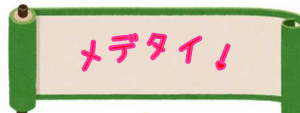
本年もどうぞよろしくお願いたします



新年が明けましたが、予断の許さない状況が続いております。コロナの収束はまだ遠く、茨城県内も感染者が多数出ておりますが、皆様が安心して来館できるよう図書館職員一同、気を引き締めていきたいと思っております。



筑西市立中央図書館



1月の映画会

「アンを探して」(105分)

日時：1月23日(土) 午後2時～

定員：25人(先着受付順)

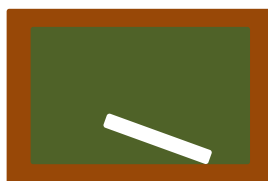
※入場無料・中央図書館カウンターまたは電話でお申し込み下さい。

お申し込みは、ご本人様のみに限ります。

【内容紹介】

「赤毛のアン」が大好きだった祖母を亡くし、悲しい面持ちでカナダのプリンスエドワード島に一人降り立った17歳の少女・杏里。島の灯台を訪ね歩く杏里には、祖母の初恋の人を捜し出すという目的もあった。

マスクの着用・手指消毒のご協力も併せてお願いいたします。



～ 牛・丑 ～ (うし)

今年の干支は丑年です。昔は農耕や交通・運搬の為の労働力としても活躍していました。奈良時代や平安時代には「酪」「蘇」「醍醐」等の乳製品が薬として利用されていたそうです。現在は外国産の牛により牛乳やチーズ・バター等の乳製品や牛肉等、食料品としても活躍しています。

中国の辞書に漢字の「牛」は「大いなる生贄」という意味であると記されています。弱く従順な存在だからこそ、善にも悪にもなる変幻自在な存在として「牛頭鬼(ごずき)」という「鬼」になったり、「牛頭天王(ごずてんのう)」という「神」になったり、「神様の使い」になるのかもしれませんが。

牛を神様や鬼として崇め怖れながらも食料としても利用するというのは、日本だけではないでしょう。「生贄=食料」というカテゴリーからは外せません。どんなに時代が進んでも「牛」は人間にとって魅力溢れる、とても美味しい「神様・鬼」なのかもしれませんね。

参考資料：『十二支の民俗誌』(382.1/サ)

『十二支の4 民俗伝承』(388.1/イ)

今月の企画展示

『アイヌ』

先住民族「アイヌ」の知ってるようで知らない話をみんなで考えよう。昔話から少し難しい本までラインナップ！

『笑 (わらい)』

新年は笑顔で過ごそう！嫌な事なんて笑って吹き飛ばせ！！

『みどりのせかい』

タイトル通りみどりの本が沢山並びます。表紙がミドリ色から内容がミドリに関するものまで…。

2F タタミの間

『全集中 読書！』

好評につき企画展示「俺の本棚」が名前を変えて参上！大正時代に関する本も追加して、2021年も読みまくれ！

Twitter URL



図書館 HP URL



電子図書館 URL



ツイッターではスタッフが本を紹介しているよ。
電子図書館はお家で簡単に本が読めるよ。
ホームページからの予約も簡単・スムーズ！

図書館にご来館の際は『マイバッグ』をご持参下さい！

皆様のご協力をお願い致します。



筑西市立中央図書館

〒308-0826 茨城県筑西市下岡崎 1-11-1

Tel : 0296-24-3530

Fax : 0296-20-1008

ホームページ <http://library-city-chikusei.jp>

ツイッター @chikusei_lib

1月の休館日：1/1(金)～1/4(月)、1/18(月)、1/25(月)